

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (現2年) 音読の仕方(1行読み、タケノコ読み)を工夫することで、音読の成長が見られた。
- (現3年) 自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができた。
- (現4年) 主語、述語、目的語などの文を構成する要素を入れて書くことができてきている。物語文において叙述を基に、登場人物の様子について捉えることが出来てきている。
- (現5年) 必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉えることができた。
- (現6年) 文章を書く際に、話の中心が明確になるよう話の構成を示すことができてきた。

(2) 課題

- (現2年) 音読ができる児童とできない児童の差が大きい。外国籍の児童も多く、扱う言葉に苦戦する。聞き取りが難しいこともある。言葉のまとまりについて理解している児童が少ない。
- (現3年) 叙述を基に文章の内容を読み捉えることや、登場人物の様子を捉えることに課題が見られる。
- (現4年) 漢字の習得率が全体の7割である。自分の考えや相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、文章を表現する力が身に付いていない。
- (現5年) 情報と情報の関係について理解して自分の考えを明確にして書くことや、段落の役割について理解し、3段落構成で文章を書く技能に課題が見られる。
- (現6年) 目的に応じて文を書くことや、資料から読み取った事実を書くことに課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	問題全体の校内平均正答率は、7.1ポイント下がった。目標値よりも2.7ポイント下回っている。特に、「書くこと」の領域において、目標値を6.9ポイント下回っており、昨年度よりも21ポイント下がっている。目標値よりも上回っている領域は「読むこと」の領域で、7ポイント上回っている。	問題全体の校内平均正答率は、13.6ポイント上がった。目標値よりも2.2ポイント上回っている。特に、「書くこと」の領域において、目標値を3.2ポイント上回っており、昨年度よりも28.8ポイント上がっている。目標値よりも下回っている領域は「読むこと」の領域で、0.5ポイント下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも3.4ポイント下がった。主に記述問題が大きく目標値を下回っている。領域別にみると、言語事項、読むこと、書くことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。
第5学年	問題全体の校内平均正答率は、昨年度より4ポイント下がった。また、目標値よりも2.4ポイント下回っている。区の平均値よりも5ポイント下回っている。内容の読み取りに関しては目標値とほぼ同等の数値だが、文章を書く問題で10～20ポイント下回っている。	問題全体の校内平均正答率は、0.1ポイント下がった。目標値よりも5.7ポイント下回っている。ただし、目標値よりも「情報の扱い方の事項」は4.5ポイント、「言語事項」は7.6ポイント上回っている。また、目標値よりも「書くこと」は9.8ポイント、「読むこと」は8.1ポイント下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも1.4ポイント上がった。領域別にみると、言語事項、読むことに関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。
第6学年	問題全体の校内平均正答率は、昨年度より3.5ポイント上がった。目標値よりは2ポイント上回っている。区の平均値とほぼ同等の値である。全体的に目標値を上回っているか、同等の値である。「敬語」「漢字の由来」「文章を書く」分野でポイントを下げている。	問題全体の校内平均正答率は、昨年度より4ポイント下がった。ただし、目標値よりは3.4ポイント上回っている。「活用」問題については、9.5ポイント上回っている。また、「話す・聞くこと」においては、昨年度よりも12.5ポイント、「言語事項」は、10ポイント下回っている。	問題全体の校内平均正答率は、0.1ポイント下がった。目標値よりも5.7ポイント下回っている。ただし、目標値よりも「情報の扱い方の事項」は4.5ポイント、「言語事項」は7.6ポイント上回っている。また、目標値よりも「書くこと」は9.8ポイント、「読むこと」は8.1ポイント下回っている。

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年 ◎漢字の読むことは、おおむね習得できている。 ◎へんやつくり、ローマ字の読み方、国語辞典の使い方などについて理解している △第3学年の漢字の書き、主語と述語の関係についての理解ができていない。	4年 ◎説明文の内容について、叙述を基に捉えることができています。 △自分の考えや相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、文章を表現する力が身に付いていない。	4年 ◎目的意識をもって読もうとしている。 △読む必然性を感じた上で自分から読もうとする児童が少ない。 △読んだことを基に文章で表現しようとするのが難しい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年 ◎漢字の読むことは、おおむね習得できている。 △配当されている漢字の書き連用修飾語についての理解ができていない。 6年 ◎漢字の読むこと、書くことは、おおむね習得できている。 △敬語についての理解と漢字の由来についての理解ができていない。	5年 ◎話し合いの内容を聞き取ることにについて、話し手が伝えたいことの内容を捉えることができています。 △説明文の内容や段落相互の関係を捉えて、文章を書いたり読み取ったり、自分の考えを明確にしてすることが十分に身に付いていない。 6年 ◎目的に応じて話の内容を捉えることや、叙述を基に文章の内容を捉えることができています。 △目的に応じて文章を書くことや、資料から読み取った事実を書くことが十分に身に付いていない。	5年 ◎文章を読んで想像することには、意欲的に取り組んでいる。 △全体的な語彙量が少なく、読み取ったことを表現することが難しくなっている。 6年 ◎漢字の読みにおいては、主体的に取り組むことができています。 △文章を書くことに、主体的に取り組むことができないため、指定された文字数で作文ができなかったり、自分の考えを書いて伝えたりすることが難しくなっている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・毎時間の導入では、全員が学習単元の音読を聞いたり、音読をしたりすることで、語のまとまりを理解する。	・話型を示して、具体的に書くことをイメージすることで、自分の気もちや思いを書くことができる。	・単元の始めに学習のめあてをもち、見通しをもたせて活動する。 ・自分の考えを文章に表す活動を通して、書くことの楽しさを感じさせる。

(2)中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・朝学習では、漢字ドリルや漢字プリントなどで、復習する時間を設け、今後も定着を図る。 ・漢字の学習をもとにして、様々な短文を書いたり、読んだりする学習を	・テンプレートを用いて、短くても自分の考えを文章にする時間を設定する。 ・言語活動として、手紙、意見交換会などの機会を多く設定し、相手意識	・学習のめあてを明確にして学習活動を行い、ふりかえりでは学習を通して付いた力を振り返る。

増やしていく。	をもちつつ、自分の考えを表現する力を養う。 ・目的を明確にした読みの活動を行い、叙述をもとに意見交流を行う。 ・発表の前に、考えを文にまとめる機会を増やす。	
---------	--	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・朝学習では、漢字ドリルや漢字プリントなどで、復習する時間を設け、今後も定着を図る。 ・言葉に注目させて授業を進めていき、文章を読み取ったり書いたりする際に確認することで語彙力を上げる。	・テンプレートを用いて、短くても文章にする時間を設定する ・慣れてきたら、説明文の要旨に対する自分の考えや、物語文の主な登場人物に対する感想など、定期的にまとめた量の文章を書く学習活動を設定する。	・単元のはじめに学習を通して付ける力を明確にし、見通しをもたせて取り組ませていく。 ・学習の振り返りや感想を聞く機会を設け、自分の考えを文章に書いて表現する経験を積み重ねさせる。